

令和6年2月27日(火)

特別支援教育チーム

自立活動の指導に関する研究 (2年計画の1年次)

—多様な教育的ニーズのある児童生徒等の系統的な学びを目指して—

主題設定の理由

研究の目的

研究の内容と方法

研究の実際

「自立活動の指導ガイドブック(改訂版)」の作成

- 1 ガイドブックの内容整理
- 2 ガイドブックの改善に向けたニーズ把握
- 3 ガイドブックの充実に向けた検討
- 4 ガイドブックの改善

研究の成果と課題

【山梨大学アドバイザー】

吉井 勘人 清水 徳生

【所内アドバイザー】

玄間 修

【研究メンバー】

伊藤 太一 原 満登里 樋川 陽子

主題設定の理由

特別支援教育

一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行う。

- 多様な教育的ニーズのある児童生徒等の増加
- 特別支援教育を受ける児童生徒等の増加
- 国における近年の特別支援教育に関する動向



一人一人の教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できるよう、**連続性のある多様な学びの場**の一層の整備・充実を推進する必要がある。

自立活動

- 各教科等において育まれる資質・能力を支える役割
- 心身の調和的発達の基盤を培うもの



通常の学級や**高等学校**でも**系統的な指導**を行う必要がある。

現行の学習指導要領からの追加項目

「健康の保持：障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること」を**全ての児童生徒等に提供**できるように、自立活動の指導ガイドブックおよび指導パッケージの作成に取り組む。

研究の目的

- 1 . 多様な教育的ニーズのある児童生徒の**自立活動の指導**に当たってガイドブックを作成し、実践場面における**効果的な個別の指導計画の作成**や、**教員間での有効的な連携**につなげるようにする。
- 2 . 小中高等学校および特別支援学校における自立活動の指導ガイドブックの活用について検証し、**高等学校における自立活動の在り方**を
探る。

(キーワード) 自立活動 個別の指導計画 系統性

研究の内容と方法

令和5～6年度の2年研究として

1. 「自立活動の指導ガイドブック（改訂版）」の作成

現行の学習指導要領における自立活動の指導について、特別支援学校や特別支援学級に在籍する児童生徒はもちろんのこと、**通常の学級に在籍する多様な教育的ニーズのある児童生徒も含めて**活用できる内容とする。

アンケート調査や聞き取り調査をもとに、**学校現場のニーズに合わせて内容の改善**を行う。

2. 「高校生への自立活動の指導パッケージ」の作成

文献調査および指導実践をもとに、**高校生に対しても必要な指導・支援を系統的に提供**できるようにするための指導パッケージを作成し、高等学校における自立活動の指導の在り方について探る。

3. ガイドブックおよび指導パッケージの発信

作成した「自立活動の指導ガイドブック（改訂版）」と「高校生への自立活動の指導パッケージ」を県内の各学校向けに発信できるようにする。

1年次の研究

内容

「自立活動の指導ガイドブック（改訂版）」の作成

内容の整理

ニーズの把握

充実のための改訂

方法

1．ガイドブックの内容整理

平成23年度から25年度までの3年研究で取り組んだ成果物「自立活動の指導ガイドブック」を現行の学習指導要領に基づいて整理し、通常の学級に在籍する発達障害を含めた障害のある児童生徒や、特別な教育的支援を必要とする児童生徒も含めて活用できる内容にする。

2．ガイドブックの改善に向けたニーズ把握

～教職員対象アンケート調査の分析をもとに～

特別支援教育に関する現在の取組状況や課題意識等について分析し、学校現場のニーズを把握する。

3．ガイドブックの充実に向けた検討

ガイドブックの充実に向けて、児童生徒の実態把握のためのチェックシートの検討や、高校生への自立活動の指導についての文献調査を進める。

4．ガイドブックの改善

アンケート調査の結果から考えられる学校現場のニーズを踏まえ、ガイドブックの改善を行う。

研究の実際

「自立活動の指導ガイドブック（改訂版）」の作成 1 ガイドブックの内容整理

より見やすく、
活用しやすい内容に！

【旧】

【新】

1 自立活動の教育課程上の位置付け

小・中学校の教育は、児童生徒の生活年齢に即して系統的・段階的に進められています。その教育内容は、発達段階等に即して設定されたものが配列されており、それらを順に教育することにより人間としての調和のとれた育成が期待されています。

障害のある児童生徒の場合は、その障害によって、日常生活や学習場面において様々な課題や困難が生じることから、小・中学校の児童生徒と同じように心身の発達の段階等を考慮して教育するだけでは十分とは言えません。そこで、個々の障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するための指導が必要となります。このため、特別支援学校においては、特に「自立活動」の領域を設定し、その指導を行うことによって、人間として調和のとれた育成を目指しています。

学校教育法第72条で示されている特別支援学校の目的の一つは、「障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を授ける」ことです。

それは「自立活動」の指導を中心として行われるもので、授業時間を特設して行う自立活動の時間における指導を中心とし、各教科等の指導においても自立活動の指導と密接な関連を図って行われなければならない。

特別支援学校や通級による指導においては、児童生徒の障害の状態を考慮すると、小学校又は中学校の教育課程をそのまま適用することが必ずしも適当ではなく、特別支援学校小・中学校学習指導要領に示されている自立活動等を取り入れた特別の教育課程を編成する必要がある場合があります。このため学校教育法施行規則には、特別の教育課程を編成できることが規定され、小学校又は中学校学習指導要領解説（編制編）では、自立活動の内容を取り入れるなどして、実情に合った教育課程を編成する必要があることが示されています。

学校教育法第72条

「特別支援学校は、視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者、肢体不自由又は教育者（身体状態を省き、以下同じ。）に対して、幼稚園、小学校、中学校又は高等学校に準ずる教育を施すとともに、障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を授けることにも目的とする。」

「小学校学習指導要領又は中学校学習指導要領解説（編制編）」

第3章第2節その他の他の教育課程編成の特別（国等）
「特別支援学校小・中学校・中学校学習指導要領を参考とし、例えば、障害による学習上又は生活上の困難の克服・克服を目指した指導が必要となる者がいる。こうした児童生徒の指導に当たっては、本書に示した内容を参考にして適切な指導や必要な知識技能を授けることが求められる。」

「特別支援学校学習指導要領解説（編制編）」

第2章自立活動の領域と指導の基本（国等）
「小学校又は中学校の通常の学級に在籍している児童生徒の中には、通級による指導の領域とはならないが障害による学習上又は生活上の困難の状態・克服を目指した指導が必要となる者がいる。こうした児童生徒の指導に当たっては、本書に示した内容を参考にして適切な指導や必要な知識技能を授けることが求められる。」

1 自立活動とは



小・中学校の教育は、児童生徒の生活年齢に即して系統的・段階的に進められています。その教育内容は、発達の段階等に即して設定されたものが配列されており、それらを順に教育することにより人間としての調和のとれた育成が期待されています。

障害のある児童生徒の場合は、その障害によって、日常生活や学習場面において様々な課題や困難が生じることから、小・中学校の児童生徒と同じように心身の発達の段階等を考慮して教育するだけでは十分とは言えません。そこで、個々の障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するための指導が必要となります。このため、特別支援学校においては、特に「自立活動」の領域を設定し、その指導を行うことによって、人間として調和のとれた育成を目指しています。

学校教育法第72条で示されている特別支援学校の目的の一つは、「障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を授ける」ことです。それは「自立活動」の指導を中心として行われるもので、授業時間を特設して行う自立活動の時間における指導を中心とし、各教科等の指導においても自立活動の指導と密接な関連を図って行われなければならない。

特別支援学校や通級による指導においては、児童生徒の障害の状態を考慮すると、小学校又は中学校の教育課程をそのまま適用することが必ずしも適当ではなく、特別支援学校小・中学校学習指導要領に示されている自立活動等を取り入れた特別の教育課程を編成する必要がある場合があります。このため学校教育法施行規則には、特別の教育課程を編成できることが規定され、小学校又は中学校学習指導要領解説（編制編）では、自立活動の内容を取り入れるなどして、実情に合った教育課程を編成する必要があることが示されています。



これまでの冊子から
今後はデジタル形式に
変更

2 ガイドブックの改善に向けたニーズ把握 ～ 教職員対象アンケート調査の分析をもとに～

インクルーシブ教育システム
推進研修後の
ふりかえりシートより

【質問】 回答者自身に関する内容

1. 所属 (小学校 中学校 高等学校 特別支援学校)
2. 役職名 (校長 副校長・教頭 教諭 (主幹教諭・教務主任) 教諭 (通常の学級担任)
教諭 (特別支援学級担任・通級による指導担当) 養護教諭 栄養教諭 その他 (上記以外)) 小中学校の場合
3. 勤務地域 (甲府市 中巨摩 北巨摩 峡東 峡南 南都留 北都留)
4. 特別支援教育コーディネーターの経験 (今年度担当している 過去担当していた 担当したことはない)
5. 支援を必要とする児童生徒との関わり (現在携わっている 過去携わっていた 携わったことはない)

【質問】 特別支援教育に関する内容

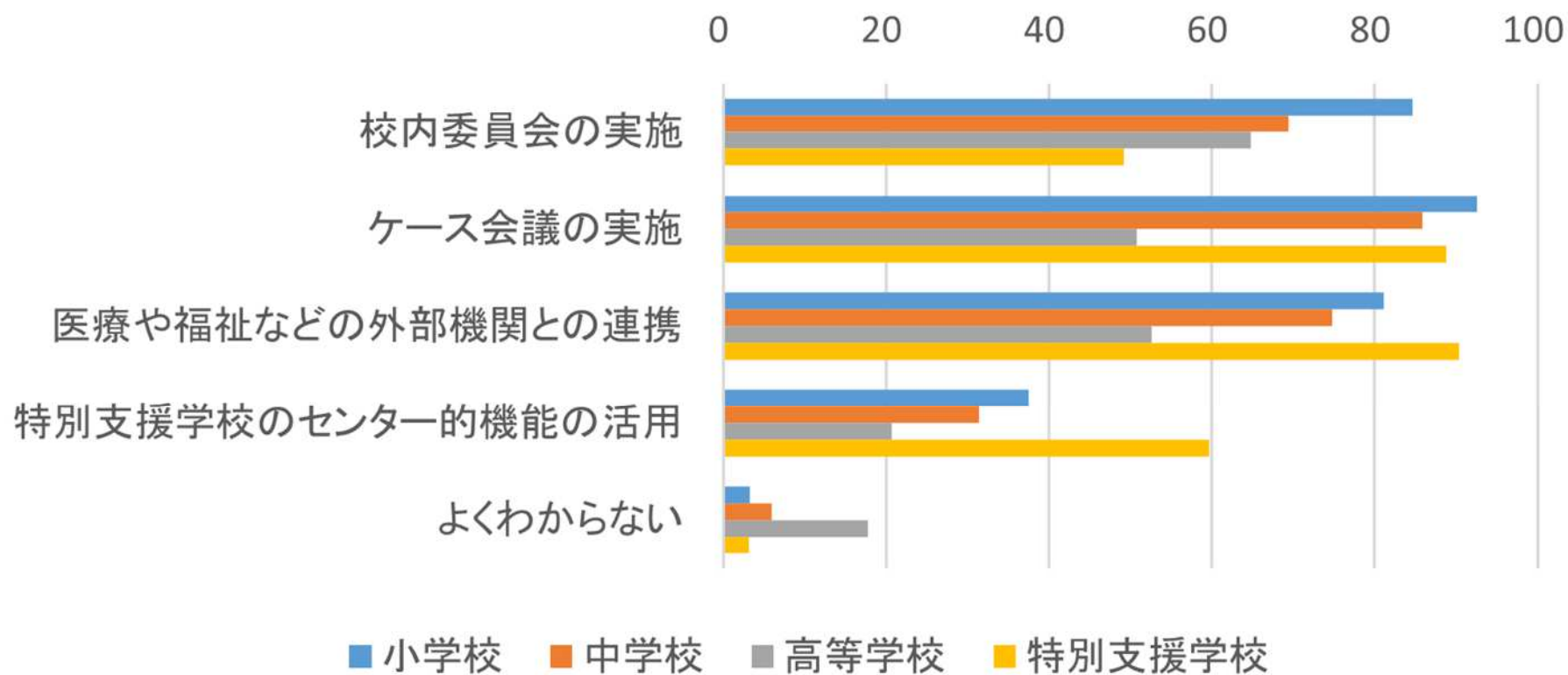
1. 勤務校で現在取り組んでいること
(校内委員会の実施 ケース会議の実施 医療や福祉などの外部機関との連携 特別支援学校のセンター的機能の活用 よくわからない)
2. あなたがこれまでに取り組んでいること
3. 取組の必要性を感じていること
(児童生徒の実態把握 ユニバーサルデザインを意識した授業 児童生徒のニーズに合わせた教材教具の活用
児童生徒のニーズに合わせたICTの活用 児童生徒の困り感や配慮に対する周囲の児童生徒への理解啓発
個別の教育支援計画の作成 個別の指導計画の作成 児童生徒の状況について他の教職員との情報共有 その他)
4. 特別支援教育について思っていること

【質問】 「共生社会の担い手」を育む教育に関する内容

1. あなたは、児童生徒が自分のよさや可能性を認識する教育を意識していますか。
(非常に意識している 意識している どちらともいえない あまり意識していない 意識していない)
2. あなたは、児童生徒が他者を尊重し、多様な人々と協働する教育を意識していますか。
(非常に意識している 意識している どちらともいえない あまり意識していない 意識していない)
3. 子どもたちに、共生社会はどんな社会であると伝えますか。

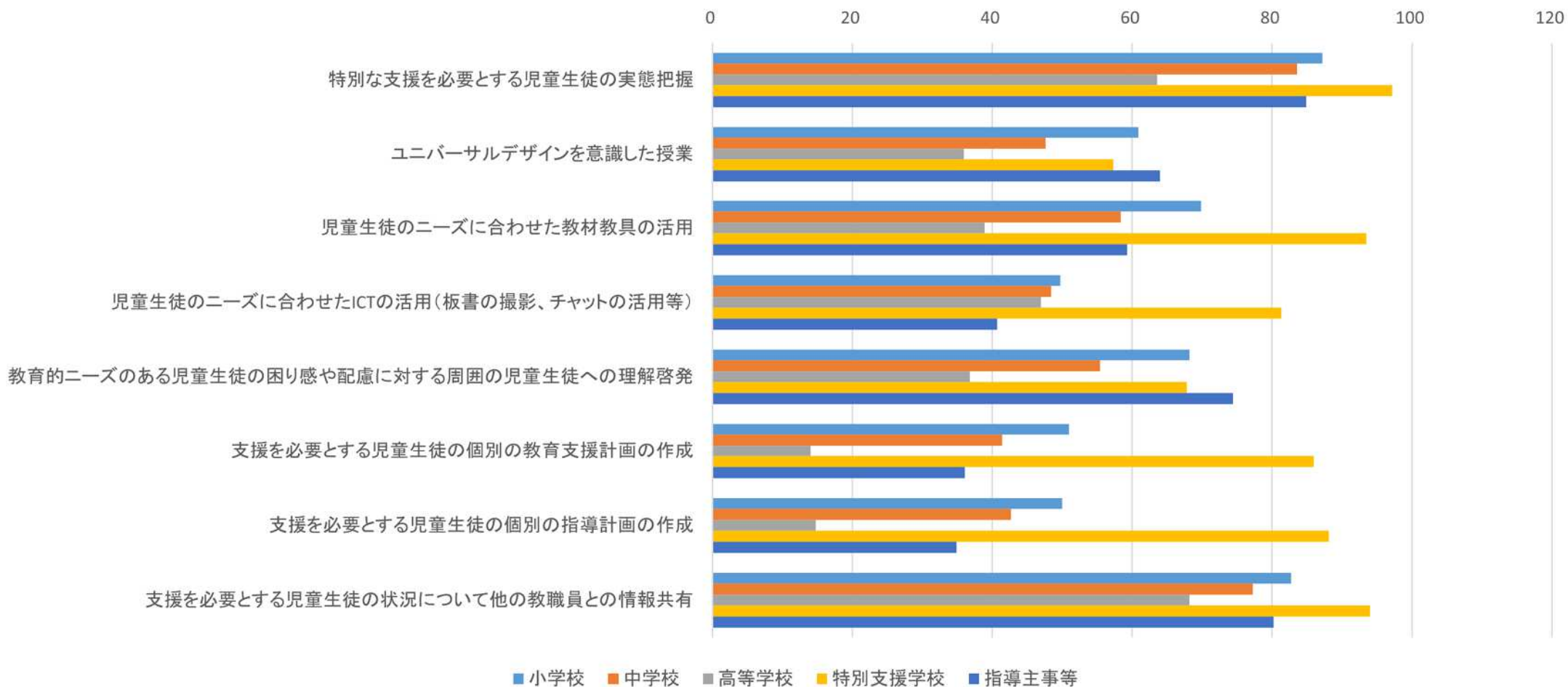
校種別の取組状況分析

あなたが現在勤務している学校で取り組んでいることをすべて選んでください(%)



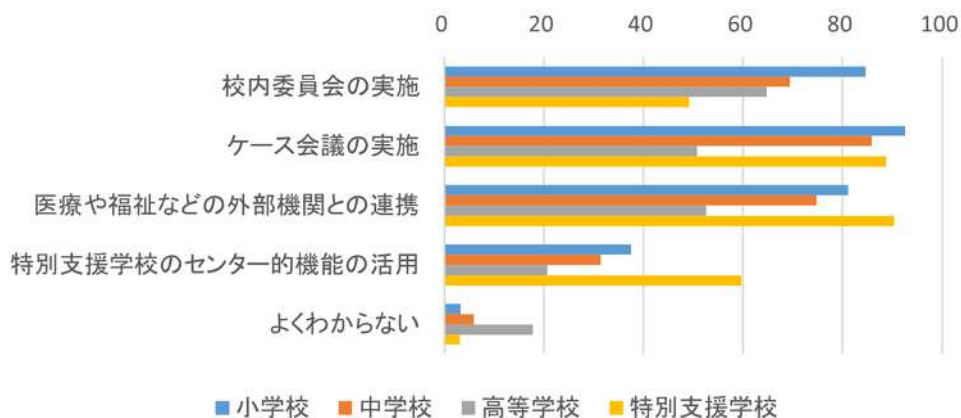
校種別の取組状況分析

あなたがこれまでに取り組んでいるものをすべて選択してください。(%)

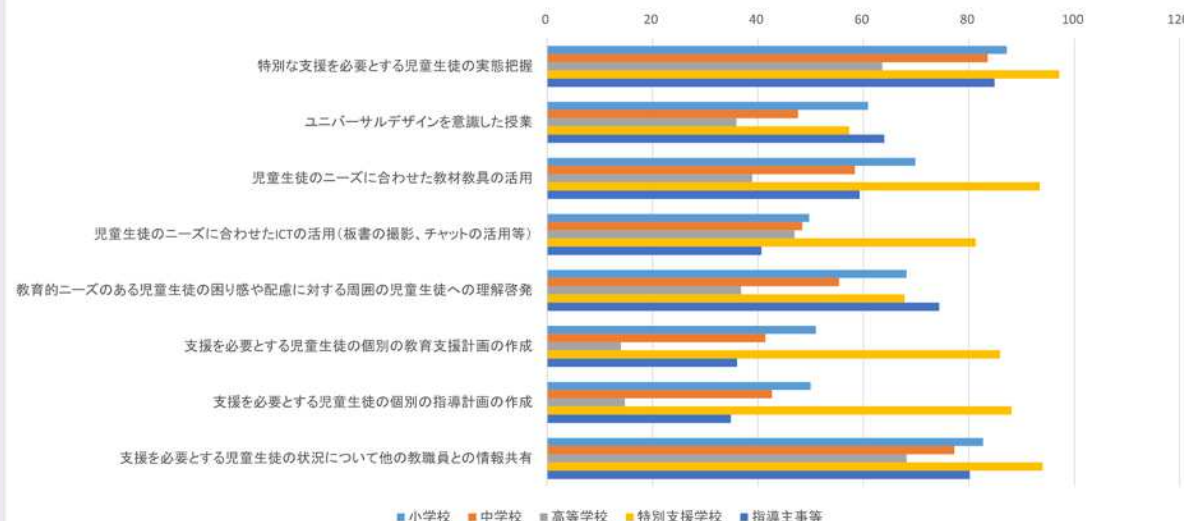


校種別の取組状況分析

あなたが現在勤務している学校で取り組んでいることをすべて選んでください。(%)



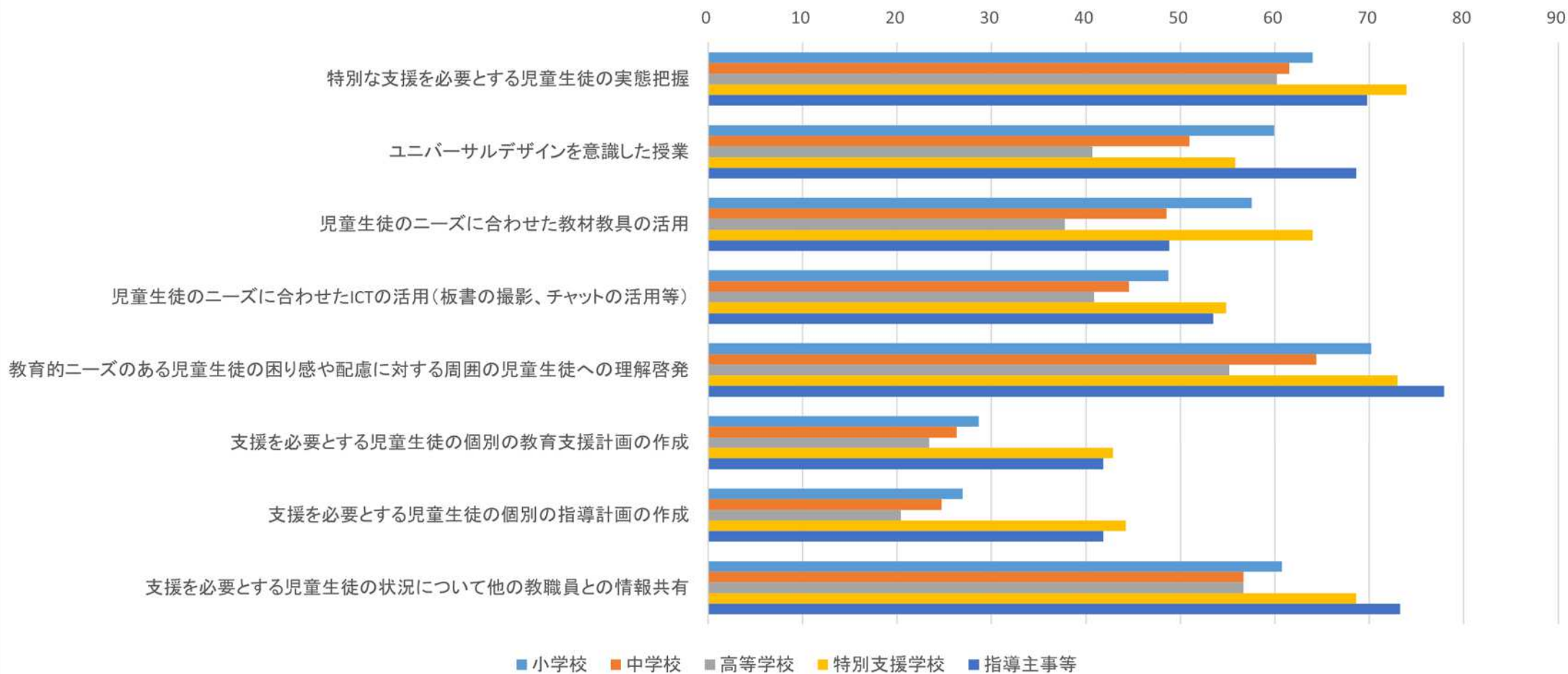
あなたがこれまでに取り組んでいるものをすべて選択してください。(%)



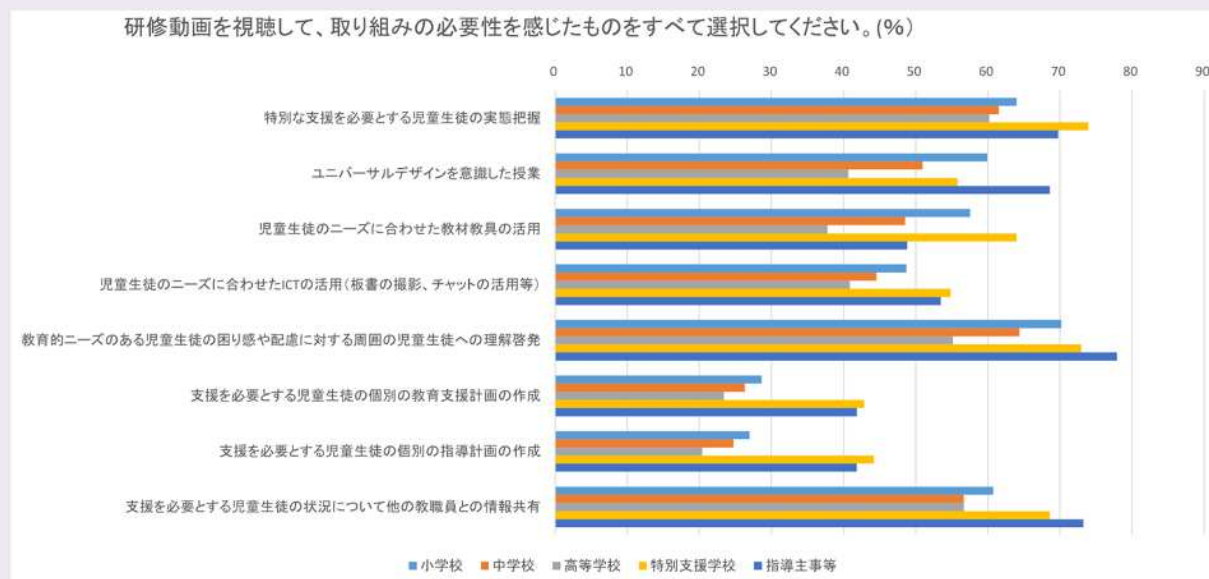
小中学校では、支援を必要としている児童生徒への個別の対応に取り組んでいる率が高い。高等学校では、個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成率が他校種に比べて低い。校内委員会も含め、教職員間での情報共有の取組は、すべての校種で高くなっている。その他の取組としては、保護者・外部機関との連携や、特別支援教育に関する研修の実施が多く挙げられた。

校種別の課題意識分析

研修動画を視聴して、取り組みの必要性を感じたものをすべて選択してください。(%)



校種別の課題意識分析

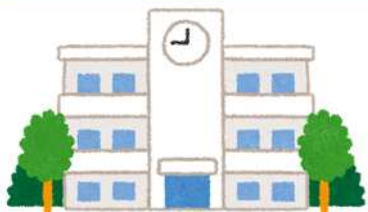


小・中・特別支援学校では、特別な教育的ニーズのある児童生徒の困り感について、周囲の児童生徒への理解啓発が特に必要であると考えられている。

高等学校では、ユニバーサルデザインを意識した授業づくりや、個別の教育支援計画の作成など、個に応じた指導支援の必要性を挙げる人が増えてきており、意識の変化がうかがえる。全体では、ユニバーサルデザインを意識した授業づくりと、特別な教育的ニーズのある児童生徒の困り感への理解啓発の数値が高くなっている。

その他、必要性が高いと考えられているものとして、保護者や地域への理解啓発、教職員の意識改革（考え方、授業方法等）、教職員数の増数、学級編制人数の減数等が挙げられた。

各学校のニーズ分析（自立活動の視点から）



学校のニーズ



情報共有のための
ツールがあると便利！



授業づくりに生かせる
取組例を知りたい！

実態把握のための
チェックシート

個別の教育支援計画
個別の指導計画作成ガイド

自立活動の視点を生かした
実践事例

をガイドブックに追加

自立活動の視点で実態を捉え直すためのシート

sheet 4 「自立活動について」

自立活動

区分	項目	評価点	領域計
1 健康の保持	(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事		0
	(2) 病気の状態の理解と生活管理に関する事		
	(3) 身体各部の状態の理解と養護に関する事		
	(4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事		
	(5) 健康状態の維持・改善に関する事		
2 な心安定的	(1) 情緒の安定に関する事		0
	(2) 状況の理解と変化への対応に関する事		
	(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事		
3 の人間関係	(1) 他者とのかかわりの基礎に関する事		0
	(2) 他者の意図や感情の理解に関する事		
	(3) 自己の理解と行動の調整に関する事		
	(4) 集団への参加の基礎に関する事		
4 環境の把握	(1) 保有する感覚の活用に関する事		0
	(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事		
	(3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関する事		
	(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事		
	(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事		
5 身体の動き	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事		0
	(2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事		
	(3) 日常生活に必要な基本動作に関する事		
	(4) 身体の移動能力に関する事		
	(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事		
6 コミュニケーション	(1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事		0
	(2) 言語の受容と表出に関する事		
	(3) 言語の形成と活用に関する事		
	(4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事		
	(5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事		

○学習面・行動面の各項目について、自立活動の項目との関連を検討し、結びつけた。

○項目相互の関連も検討し、自動で得点化されるようにした。

○各項目得点および各区分得点から、中心となる課題を捉えやすくした。

指導目標を設定

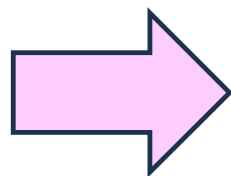
指導目標を達成するために必要な項目の選定

指導内容を設定

3 ガイドブックの充実に向けた検討

(2) 「高等学校における自立活動の指導」に関する文献調査

- 小関俊祐 2020年2月 自立活動の視点に基づく高校通級指導プログラム 認知行動療法を活用した特別支援教育
- 昭和大学発達障害医療研究所 平成26年7月 発達障害専門プログラム
- 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 令和2年3月 高等学校教員のための「通級による指導」ガイドブック おさえておきたいQ & A
- 小島道夫ほか 2008年11月 発達障害の子どもがのびる！かわる！「自己決定力」を育てる教育・支援 など



実態把握は「教師のニーズ」ではなく「生徒のニーズ」。教師から見た「できない」ではなく、生徒自身の必要性を見極めること

目標はゴールではない。ゴールと今をつなぐ道筋。「できるようになる」といった目標は、苦手な子に苦手なことをやらせ続けることになってしまう

指導内容は、自立活動6区分27項目を踏まえて、「自分に合う学習方法の習得」「対人関係やコミュニケーション能力の向上」「社会的スキルの獲得」「問題解決能力」「生活に関すること」「キャリア教育」「SOSを発信する」等、生徒のニーズに合わせて設定

相談支援センター「高校生こころのサポートルーム」における実践

経過・実態	<ul style="list-style-type: none"> 得意なことは記憶力や言語理解、書くこと作業は苦手 保護者の相談したい内容は、「授業態度や頭の切り替え」 本人の願いは、「落ち着いて過ごしたい」 学校では、人と好ましく関わる事ができない。 「感情のコントロール」「アサーション」「コミュニケーションのこつ」等のSSTが継続してあったほうが良い。時間管理も課題 		
自立活動における目標	周りの人が自分をどのようにどのように思っているか、相手の気持ちを読んで対応するヒントや感情のコントロールやアサーションの方法を理解し、学校生活や卒業後、人との適切なかわり方に気づく。 時間の使い方を見直し、自分の計画を立て実行するスキルを身につける。		
方法及び配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や学校生活の出来事について、どのように認知し、どう感じたか、その結果どうなったか等、やりとりしながら本人の気づきを促す。そして対人関係等の課題に自ら対応する方法を考えるようにする。 学校生活等のエピソードを活用した宿題の設定 丁寧に聞き取りや説明等を行う。 		
実施計画			
1	4月28日(金)	○自己紹介 ○オリエンテーション 1 昨年の振り返り 2 新学期の学校や家庭の様子 3 「自分について長所、短所」	コミュニケーション
2	5月22日(月)	前回の内容を受けて内容検討 ・「感情のコントロール」「予定や約束」	心理的な安定
3	6月19日(月)	・「予定や約束」	心理的な安定
4	7月10日(月)	・「夏休みの計画(計画立案)」	コミュニケーション
5	8月21日(月)	・「夏休みの計画(振り返り)」	コミュニケーション
6	9月25日(月)	・「定期考査週間予定の作成」	心理的な安定
7	10月23日(月)	・少し先の未来1	人間関係の形成
8	11月20日(月)	・少し先の未来2	人間関係の形成
9	12月11日(月)	・コミュニケーションのこつ(アサーション) ・まとめ	コミュニケーション
	予備	学校との情報交換	

これまでの経過や本人のニーズ、保護者の願いについて検討

考えられる自立活動における目標については本人の合意を得る

配慮事項や方法については再検討できるようにスーパーバイズをもらう

具体的な指導内容と自立活動との関連を検討する。都度、評価、改善を図る

「高校生への自立活動の指導パッケージ」作成に向けての検討

高校生の自立活動の指導内容【試案】

区分	主な内容と目的	関連する自立活動の区分
1 保 持 の 健 康	・具体的な行動目標を立てる	2 . 3 . 4 . 5 . 6
	・自分の特徴を知る（障害理解、自己理解の促進）	2 . 3 . 4 . 5 . 6
	・ストレスと上手に付き合う（心理的安定）	2 . 3
	・予防や病理に関する知識の獲得	2 . 4
2 な 心 理 的 安 定 的	・リラックスをする	5
	・アンガーマネジメント	1 . 3
	・不安のコントロール	1 . 3 . 4 . 5
	・うまくいかない行動を分析する（機能分析）	3 . 4 . 6
3 の 人 間 関 係	・人との適切な距離感（社会技能訓練）	2 . 6
	・約束を守るためのコツ（自己調節の促進）	2 . 4 . 6
	・ピア・サポート	2 . 6
	・相手への気遣い	2 . 6
4 環 境 の 把 握	・自分の得意、不得意を知る（自分の感覚についての把握）	1 . 2 . 3 . 6
	・スケジュール管理の仕方を知る	1 . 2 . 3 . 6
	・認知特性に応じた学習方法の習得	
	・知識や情報の補充	
	・認知機能強化トレーニング	
5 身 体 の 動 き	・ビジョントレーニング（視覚機能の向上）	4
	・手指の巧緻性の向上	
	・不器用さに対しての自分らしい動きを知る	1 . 4
	・発達性強調運動障害とは	1 . 4
	・日常生活技能にかかわる動きの獲得	1 . 4
6 ケ コ ミ ュ ニ シ ョ ン	・他者を理解する	1 . 2 . 3 . 4
	・上手に自己主張ができるようにする	1 . 2 . 3 . 4
	・相談できる人、場所を見つける	1 . 2 . 3 . 4
	・会話のマナー	1 . 2 . 3 . 4
	・アサーション	1 . 2 . 3 . 4

主な指導内容について、
自立活動の6区分で分類・整理

本人の中心課題（困難さが大きい
と考えられる区分）をもとに、
指導内容を選定しやすい

各指導内容に取り組む際に、
関連があると考えられる
他の自立活動の区分を示す

他の区分との関連も考え併せて、
指導内容を選定しやすい

4 ガイドブックの改善

～これまでの取組と今後の活用に向けて～

1年目



特別支援教育に関する
ニーズ

調査

・アンケート

ニーズ把握にもとづいた
追加内容の整理
チェックシートと支援計画・
指導計画作成ガイドの追加
実践事例と指導パッケージの
追加に向けた文献調査

2年目



自立活動の指導に関する
ニーズ

調査

・聞き取りなど

自立活動の課題整理
修正箇所・追加内容の整理
文献調査と指導実践にもとづいた
事例と指導パッケージの追加

・R5年度の研究

発信



デジタルガイドブックの活用

研究の成果と課題

全教職員を対象としたアンケート調査をもとに学校現場のニーズをつかむことにより、**学校のニーズ**に応じた内容を**ガイドブック**に取り入れ、**改善**を図ることができた。

これまでの研究成果や自立活動の指導実践について、「**系統的な指導**」という観点から再検討し、より**活用しやすい**形にするよう考えることができた。

「ガイドブックが、児童生徒の実態把握や自立活動の授業づくりに役立つものとなっているか」といった視点で調査を実施し、現在の状況を確認すると共に、自立活動の指導において現場の先生方が感じている課題点や指導上の悩みについて把握し、より**先生方のニーズ**に合った**ガイドブック**にするよう、内容について**一層吟味**していく。

自立活動の**実践事例**や**指導パッケージ**といった授業づくりの参考となる資料を追加し、ガイドブックをより活用しやすいものとする中で、**全ての先生方が「自立活動」の視点をもって指導・支援を行うことができる**ようにし、**全ての児童生徒が、小学校から高等学校まで系統的に必要な学びを積み重ねていくことができる**ようにする。

ご清聴ありがとうございました

